

図書館だより

北海学園大学附属図書館報 第30巻4号(通巻188号) 2009.1.13

vol.30

NO.4

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

高橋義裕

2 コンクリートよもやま話

石井 耕 寺田吉孝

3 私が薦めるこの1冊

4 2008年度 図書館利用ガイダンス アンケート結果速報

イチオシ!

6 データベース紹介

高橋将人

7 中山竹通の生き方

井川重乃

「おひとりさま」大学生の十カ条

図書館の仕事

8 情報管理係「目録係・雑誌係」

お知らせ 編集後記

コンクリートよもやま話

文＝高橋義裕

(たかはし よしひろ／工学部教授)

コンクリートは、われわれの生活、文化活動、産業経済活動の基盤を形成する重要な資材であるばかりでなく、自然の脅威からわれわれを守り、また環境を保全するためにも必須の材料です。しかし、コンクリートは、社会を支える重要で貴重な材料であり、誰一人としてその恩恵によらない者はいないにもかかわらず、一般社会からの評価は必ずしも高くありません。コンクリートは、誰もが良く知っているどこにでもある材料であり、あまりにも身近な材料であるためか、恩恵をあまり感じていないようにも思われます。そこでコンクリートの実際の姿を改めて見てみましょう。

まずはコンクリートとは何者なのでしょう。コンクリートとは、複数の材料を混ぜ合わせて作られた物で、主役となるセメントは、石灰石と粘土と石膏を混ぜ合わされて出ています。このセメントに砂と砂利、そして水を混ぜ合わせてコンクリートは出ています。コンクリートはセメントと水の化学反応によって固まっていき、砂や砂利を巻き込むことで硬さを増していきます。

さて、皆さんは「鉄筋コンクリート」という言葉を聞いたことがありますか。これは、コンクリートの中に「鉄筋」を入れた物です。コンクリートは押さえつける力（圧縮力）に対しては強い抵抗力を発揮しますが、引張る力（引張力）に対しては意外と弱い物なのです。橋の上に車が載ると、上側には押さえつける力が作用しますが、下側には逆に引張る力が作用します。そのため、引張に対する対策が必要となります。そこで、足りない引張りに対する抵抗力を補うために入れられたのが「鉄筋」なのです。「鉄筋」の力を借りてコンクリートを強くしようとするのが「鉄筋コンクリート」なのです。

10年ほど前に「コンクリートが危ない」という本が話題になりました。この本の中では様々なコンクリート構造物の異変が語られています。どうしてコンクリートを使った構造物に異変が起きているのでしょうか。コンクリートは様々な材料から成り立っています。それぞれ

が問題のない健全な材料であれば、構造物のトラブルは起こりにくいといえます。しかし、日本の発展と共にコンクリートを用いた構造物が急増する中で、優れた材料がいつまでも安定して得られ続けるということは考えられません。そこで多量の塩分を含んでいる海砂の利用が始まりました。塩分そのものがコンクリートに対して悪影響を及ぼすことはありませんが、コンクリートに強度を持たせるための鉄筋には「さび」という致命的なダメージを与えます。鉄筋はさびる際に体積が膨張し、コンクリートの内部で膨らもうとする力が働き、コンクリートはその力に抗しきれず、ひび割れを起こしてしまいます。さらに、そのひび割れを伝って、また新たなさびの原因となる水や酸素、そして二酸化炭素が入り込みます。そうするとコンクリートは、まさに死への一途をたどるのみです。さらに厄介な「アルカリ骨材反応」と呼ばれるコンクリートのがんがあります。この反応は、コンクリートのアルカリ性とコンクリート中のある骨材とが反応を起こし、膨張しコンクリートにひび割れを起こさせます。これまた大変厄介な問題なのです。

多くの家電製品は、物が壊れたら古いものを捨て、買い換えればそれで問題は解決しますが、橋やトンネルは壊れたからといって安易に捨てることはできません。私たちが病にかかれば、まずお医者さんにかかります。そして、薬や注射、ときには手術という手段をもって治療にかかります。コンクリートの場合も同様に治療を施します。これを「補修・補強」といいます。橋やトンネルも「補修・補強」して使うこととなります。「作る」ことで豊かさを支えてきた高度成長時代は過ぎ、これからは今ある構造物を「補修・補強」しながら大切に使ういく時代なのです。「作る」時代から「維持管理し、未永く使っていく」時代へ移ってきたのです。

私が薦める
この1冊

藤沢 周平

『三屋清左衛門残日録』(文春文庫 文芸春秋 1992)

文=石井 耕

(いしい こう/経営学部教授)

私が藤沢周平の世界にはまったきっかけが、この本だった。それまで時代小説・歴史小説にそれほど関心がなかった。家族で、カナダ・ノヴァスコシア州・ハリファックス市にあるセントメリーズ大学に客員教授として赴任していた1994-95年のことである。日本から多少の本を持っていったが、たちまち読み終わってしまい、大学の図書館にある日本語の本もたいしたものはない。今のようにインターネットで日本の情報が見られる状況にもなかった。活字中毒の私にとって、1ヶ月くらいで、とても耐え難いことになったのである。

ポストンで学会があり、家族で旅行することになり、そこには日本の食品とともに日本の本を売っている店があったのである。そこで出会った文庫本が、三屋清左衛門であった。海坂藩という、東北の日本海側にある藩の重臣(用人)を務めた三屋清左衛門が致仕し、隠居の身として、様々な事柄に関わっていくのである。来し方を振り返り、残された日々を思う。局外にしながら、現実に関わられる。まだまだ、できることは多い。

藤沢周平は、この海坂藩を舞台にした小説と江戸を舞台にした小説を中心に書いた。海坂藩は、藤沢周平の出身地・鶴岡の庄内藩をモデルとしている。その後、鶴岡を旅し、文化2年(1805年)に開講した藩校・致道館(現在の建物は文化13年移築)をはじめ、多くの趣のある建造物が残っていることに、親しみと嬉しさを感じた。なにしろ、私の母方の祖父は、明治12年に、元庄内藩士の家に生まれたのである。

藤沢作品の面白さについて、現代の状況を江戸時代に置き換えて描いているからだ、という意見がある。例えば、三屋清左衛門であれば、定年以降のビジネスマンの物語として描かれているというのである。しかし、私はそうは思わない。藤沢作品は、江戸という時代を舞台にして初めて成立する面白さだと思う。江戸とくに天明以降の後期における文化の豊饒さを背景にしているからこそ、この面白さがあるのだと思う。現代が失ってしまった多くのことやものが江戸時代にはあり、だから面白いのである。

私が薦める
この1冊

和久利誓一

『テーブル式ロシア語便覧』(評論社 1960年)

文=寺田吉孝

(てらだ よしたか/人文学部教授)

35年ほど前、今はなき大阪外国語大学のロシア語学科に入学することとなった。ロシア語学科の学生なので、ロシア語をしっかりと学ぶしか生きる道はないと考えてしまった。大阪梅田の紀伊国屋書店で参考書を物色していたところ、「ロシア関係の仕事をしている」という方(関西の大学でロシア語を教えておられていたK先生だったように思われる)から「この本は役に立つよ」と薦められて購入したのが本書である。入門者にとって手ごわい内容だった。だが、初級文法を終えた頃から、次第にページをめくることが多くなってきた。

ソ連科学アカデミー言語学研究所の『ロシア語文法第1巻(1952年)、第2巻(1954年)』やアヴァネーソフ著の『現代ロシア標準語の音声学』等の1950年代に

利用できた権威ある書物を基に執筆されているが、日本人学習者が使いやすいように随所に配慮が施されている。内容的には、音声学や形態論だけでなく、統語論、語形成論、正字法などもカバーしたかなり高度なものである。今でも年に10回以上は使わせてもらっている。

1991年に絶版になり、現在は古本でしか手に入らない。定価の5倍近く(約1万円)の値をつけている。学生には高価すぎる。本学の図書館に数冊入っているので、それを利用いただきたい。初版発行から半世紀が経とうとしている。中級以上の学習者の使い勝手を考慮したロシア語文法書の出版が待たれる。「おまえが書け」と言われそうだが、今のところ、能力も時間も不足している。

2008年度

図書館利用 ガイダンス

アンケート結果速報

昨年度より始めました新しい図書館利用ガイダンスですが、今年度さらに内容を充実させてリニューアルしました。ガイダンスの際、参加者の皆さんに記入していただいたアンケートの集計結果がまとまりました（2008年11月現在）。

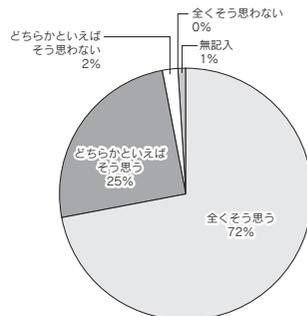
※ここに掲載されているアンケート結果は一部のみです。アンケート結果の詳細（2008年度完全版）や今後のガイダンス日程等につきましては、図書館ホームページに随時アップロードしていく予定です。

① **オリエンテーション** 主に新入生を対象に、図書館の基本的な利用方法を説明します。本の探し方から貸出・返却方法、閲覧室の見学なども行います。

参加者数 / 930名
実施期間 / 2008年4月～2008年5月
実施回数 / 66回

今回のガイダンスに参加してよかったですか。

	人数(名)	構成比(%)
全くそう思う	544	72
どちらかといえばそう思う	185	25
どちらかといえばそう思わない	12	2
全くそう思わない	3	0
無記入	10	1
合計※	754	100



※参加者数との誤差は未回収分アンケート等による。

満足できた点・満足できなかった点について、具体的に記入してください。

[満足できた点]

- I. 全体を通して説明が丁寧だった、分かりやすかった点。
- II. 今後図書館を利用してみたいと感じた点。
- III. たくさんの本に驚いた、感動した点（蔵書の豊富さ）。書庫を見学できた点。
- IV. 図書館の基本的な使い方（貸出・返却、OPAC等）が理解できた点。

担当講師からのコメント

数々のご意見、大変励みになります！ 支持していただいた部分は継続し、より良いガイダンスにしていきたいと思います。

[満足できなかった点]

- I. 後ろの方にいる参加者に説明が伝わらなかった点（声が小さい、見えなかった）。
- II. 説明時間が長すぎる点。説明時間が足りなかった点（進行の拙さ、説明時間の短さ等）。
- III. （書庫の）エレベーターが狭く、不安を感じた点。館内（閲覧室、書庫）が暑い点。
- IV. ゆっくりと書庫見学できなかった点。
- V. 全員がOPACを操作できたわけではないため、使い方が分からなかった点。
- VI. 書庫を見たかった。

担当講師からのコメント

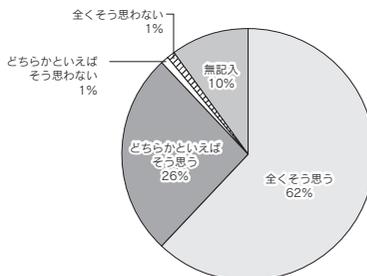
I：今後改善したいと思います。II：難しい問題ですね。より良いバランスを考えていきます。III：エレベーターですが、点検では問題ないですよ…。今後も館内環境の改善に努めます。IV：書庫見学は毎年好評なので、もう少し時間を取れるよう工夫していきたいと思えます。V：時間の都合上難しいかと……すいません。VI：先生にも相談してみてくださいね。みなさんの意見を参考に、さらなる充実を図っていききたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

②文献検索セミナー 主に2年生以上を対象とし、オンライン・データベース等を駆使しながら、必要な文献を入手するための方法を説明します。

参加者数 / 489名 (1年生: 112名、2年生: 125名、3年生: 158名、4年生: 42名、その他: 42名)
 実施期間 / 2008年6月～2008年11月
 実施回数 / 51回

今回のガイダンスに参加してよかったと思いますか。

	人数(名)	構成比(%)
全くそう思う	273	61
どちらかといえばそう思う	118	26
どちらかといえばそう思わない	6	1
全くそう思わない	6	1
無記入	44	10
合計 [※]	447	100



※参加者数との誤差は未回収分アンケート等による。

満足できた点・満足できなかった点について、具体的に記入してください。

【満足できた点】

- 今まで難しいと思いつけたことは無かったが、理解でき使おうと思った。
- わかりやすかった・理解できた。(親切・丁寧・詳しい・聞きとりやすい・はっきり・スピード)
- 新聞記事をそのままのかたちで読むことができ、写真も見ることができるところ。
- 操作しながら、説明を聞いたのでわかりやすかった。Googleで調べることが多かったので別の検索方法を

知ることができよかったです。

- 普段、パソコンは苦手を使わない自分でも、使ってみようと思うぐらいわかりやすい説明で助かりました。前回もセミナーに参加したが、忘れてた部分を思い出せてよかった。(前回よりもさらに理解できました)
- 自分の使っているPCの隣に講師の説明用PCがあり、見やすくわかりやすかった。最後に検索課題があって、自分が方法をちゃんと理解したかどうかを確認できて良かった。

担当講師からのコメント

参加者の声を励みに、より良いガイダンスにしていきたいと思えます。

【満足できなかった点】

- みんなに語りかけたりすると、おもしろみがあるのかと思いますが、今のままでも充分理解できてよかったです。

- 覚えることが多すぎて、どれを使えばいいかわからなくなりました。
- アクセス数が少ない。(JapanKnowledgeなど)

担当講師からのコメント

不慣れな進行で、申し訳ありません。さらなるレベルアップを目指します。アクセス数ですが、皆さんの利用率がアップすれば増えるかもしれません。今後ともご利用のほどお願いします。

図書館利用ガイダンスに関する意見や要望などがあれば、自由に記入してください。

- とても勉強になるのですが、受けていない人もわりと多いと思うので、もう少しガイダンスをやっているよという広報を行っても良いと思います。

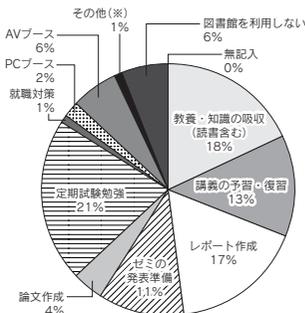
- 図書館をより身近なものにするためにとてもいい行いだと思う
- 練習問題がわかりやすかったです。

担当講師からのコメント

さらに多くの学生が参加できるように、よりよい広報を考えていきたいと思えます。学生が満足できるガイダンスに少しでも近づけるよう頑張ります。みなさんの声をもっと聞かせてください。

日頃、どのような目的で図書館を利用しますか。(複数回答可)

	人数(名)	構成比(%)
教養・知識の吸収(読書含む)	181	18
講義の予習・復習	137	13
レポート作成	173	17
ゼミの発表準備	110	11
論文作成	45	4
定期試験勉強	203	20
就職対策	13	1
PCブース	22	2
AVブース	60	6
その他(※)	13	1
図書館を利用しない	58	6
無記入	2	0
合計(のべ)	1017	100



※その他:(資格試験・英語の)勉強(4名)/睡眠(2名)/新聞(2名)/暇なとき(2名)/読書(1名)/創作(1名)/空いている時間に、静かなところに行きたいので図書館にお邪魔します…(1名)

イチョン! データベース紹介

CiNii (サイニイ)

CiNii (サイニイ)

CiNii (NII論文情報ナビゲータ) は、学協会誌・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービスのこと。

CiNiiでは、学協会が発行された学術雑誌と、大学等で発行された研究紀要の両方を検索することができる。また、検索された論文の引用文献情報（どのような論文を引用しているか、また、どのような論文から引用されているか）をたどったり、本文を参照したりすることができる。

【トップページ】

検索方法がカンタン!!

こちらをクリックすると…

The screenshot shows the CiNii search homepage. A box highlights the search input fields with the text "検索方法がカンタン!!". Another box points to a search button with the text "こちらをクリックすると…". Below the search results, a specific entry is highlighted with a box containing the following text:

11006774702 足川 敏英, 藤原 謙一郎
基礎物理学 - 過去と未来は 基礎物理学の系譜, 学問の系譜-アイソトイから量子力学へ
物理研究 9(12), 20-24, 20060602000 (122297) (物理研究9(12)-物理研究9(12))
収録データベース: NDL, NDL-JE
本文: [PDF]

【詳細画面例】

掲載雑誌・ページ数など、資料探しに必要な情報が一目でわかる!!

本文や所蔵情報も見られるかも

The screenshot shows a detailed view of an article. A box highlights the journal and page information with the text "掲載雑誌・ページ数など、資料探しに必要な情報が一目でわかる!!". Another box points to the "本文も読む" (Read full text) button with the text "本文や所蔵情報も見られるかも".

図書館では、オンラインデータベースの使い方を説明するガイダンスや、専門講師による講習会を行っています。詳しくは図書館ホームページ、館内掲示物等をご覧ください。



中山竹通の生き方

文＝高橋将人

(大学院 法学研究科 政治学専攻 修士課程)

この度は、『挑戦—炎のランナー—中山竹通の生き方・走り方』(文・構成 井上邦彦、自由国民社、2000年)を紹介したいと思います。

中山竹通氏は1959年長野県池田町出身で、富士通長野陸上部、ダイエー陸上部で活躍し、ソウル・バルセロナ両夏季五輪においていずれも4位入賞を果たしたマラソンランナーです。現在は実業団・愛知製鋼の監督を務めております。中山氏は、“本音をずばずば吐く男”、“野生児”、“マラソン界の異端児”と称されました。それは、彼の経歴に起因するものでした。瀬古利彦をはじめライバル達の多くは陸上の名門と呼ばれる高校・大学時代に全国大会で活躍し、実業団へと進んだいわゆるエ

リートでしたが、中山氏はまさに正反対の陸上人生で、学歴やコネがないことから理不尽な思いをたくさんしながらも、自己の力のみで世間に立ち向かったのです。

本書は中山氏の回想と井上邦彦氏の解説をもとに進められています。信州の山奥で過ごした少年時代に抱き続けた閉塞感、高校時代に陸上にのめり込んだこと、無名校出身であるが故に就職に失敗し「どん底」を見た浪人時代、苦しんだ末につかんだ活躍の場、日本一、世界一を目指す過程で立ち塞がった日本陸連という巨大組織。中山氏は、多くの困難を前に、いかなる思いを持って戦い続けてきたのか。彼の言葉と行動は、多くの人の心に響くはず。みなさんもぜひ一度読んでみてください。



「おひとりさま」大学生の十カ条

文＝井川重乃

(大学院 文学研究科 日本文化専攻 博士課程)

「おひとりさま」代表である上野千鶴子氏は『おひとりさまの老後』という本を出版、半年で七十五万部を売り上げた。これだけこの国に数多くの「おひとりさま」がいるということは、何だって低年齢化なこのご時勢に「おひとりさま」大学生だって多くいるのではないだろうか。

私は「おひとりさま」が悪いことじゃないと声を大にして言いたいと思う。何かにつけて恋人や友達、はたまた家族がいなくて何も出来ない人より「おひとりさま」は人間として成熟しているハズだ。

下記の〈「おひとりさま」大学生の十カ条〉に半分以上該当すれば、あなたも「おひとりさま」大学生であること間違いなし(根拠はないけれど)。ちなみに大学院後期課程に突入している私は間違いなく「おひとりさま」+「負け犬」つてやつだ(酒井順子氏のベストセラー『負け犬の遠吠え』の中にある「負け犬にならないための十カ条」の八個に該当中)。しかしこれだけで今の

生活に満足しているが、こちらは“負け犬の遠吠え”に聞こえそうなので声を大にしては言えない。

〈「おひとりさま」大学生の十カ条〉

- ① 受講科目の決め手は「友達と一緒に」ではなく「自分が興味ある分野」だから。
- ② 学部の掲示板と休講案内はちゃんと毎日見る。
- ③ 大学の説明会は親任せにせず、自分で聞きに行く。
- ④ 単位が欲しいからといって安易にノートを借りたりしない。
- ⑤ なるべく図書館は一人で利用したい。
- ⑥ 恋人はいなくてもこれといった不便は感じない。
- ⑦ しかし友達がいないととても困ることを知っている。
- ⑧ だからといって人から嫌われることを恐れたりしない。
- ⑨ 学食と便所は一人で利用出来ると思う。
- ⑩ 大学院進学を考えたことがある。

「図書館の仕事」

情報管理係「目録係・雑誌係」

こんにちは。今回は情報管理係の目録係と雑誌係を紹介します。目録とは図書館に所蔵している資料（図書・雑誌・DVDなど）のリストのことで、本学では皆さんが本を探すときに利用しているOPAC（公開検索）がそれに当たります。このOPACへの登録や、図書を分野ごとにまとめるために請求記号を付与したりして、皆さんが図書館にある資料を利用しやすく整理する係が目録係と雑誌係です。また、本学に所蔵している資料は、NACSIS Webcat（全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベースをウェブ上で検索できるシステム）に登録することにより、

全国の学生や研究者が利用できるように整理されています。

レポートの作成や試験勉強のために資料を探していると、いつも同じような書棚に行くことになると思います。館内をぐるっと一周したり、OPACで検索したりしてみると図書館には様々な分野の資料が所蔵されていることがわかります。私達は、整理した資料が一人でも多くの人に利用されることを期待しています。

休館のお知らせ

館内作業のため、下記の日程で図書館（本館、工学部分室）を臨時休館させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほどをお願いいたします。

平成21年3月24日(火)～3月27日(金) 9:00～17:00

なお、17:00～22:00までは通常通り開館いたします。

編集後記

こんにちは。冬真っ盛りですね。自転車通勤を冬季休業して大分経ちました。若干自転車が恋しい、Ibonです。初登場でドキドキです。さて、まだまだ冬は終わりが見えません。寒いし、路面は滑るし、転びそうになるのを頑張っている日々です。それでも、気分は春の風を感じているんだぜ！！ I love chariなんだぜ！！ というあなたにオススメの本はこちら。『自転車依存症』（請求記

号536.86/SHI)。いささか専門的な用語が並びますが、自転車愛好家が語る自転車への熱い思いを感じることができます。もしかしたら、自分でも自転車をカスタマイズしたいと思うようになる…かも?? 爽やかなサイクリングを想像しながら、冬を元気に乗り越えましょう。では！！

北海学園大学附属図書館報 図書館だより 第30巻4号 (通巻188号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号
TEL(011)841-1161 (本館内線)2274・2275 (工学部内線)7813・7814 印刷所：(株)アイワード